

私は大正九年、長谷尋常高等小学校に入学致しました。当時校舎は二階建ての老朽校舎で大きな柱で支えてあり、二階の五、六年の境は大きな板戸で仕切られ、式の時にはそれを取り外し、講堂に使用していました。当時は高等二年

で小学校終わりでありましたが、女子については、特に補修料があり畳の教室で裁縫を主体とし、礼儀作法等の勉強があり大部分の女子が行っていました。高等科以上の人は常時袴をはいて学校に行っていました。当時児童数は四百人位だったと思います。上級学校に行く人は少なく、二級上の矢島(旧姓安部)さんが竹田中学校に行き、後に参議院議員に当選された事は衆知のとおりです。外に矢島さんと同級に栗ヶ畑の渡辺進さんが大分中学に行き陸軍士官学校に行き近衛連隊の大隊長としてシンガポールの攻撃で武勲を立てています。後に自衛隊の連隊長になりました。

当時長谷村内出身の先生は宮成一二三、甲斐柴太郎、宮成宝馬、田尻主衛、安藤薫、渋谷政男、宮成スメ、朝生キクエの諸先生が教鞭を取

られ、村外からの先生で、伊東悟、佐藤伊津男、一年と六年生の時の受持ちで唱歌を習った阿南喜誉美先生が印象深く残っております。

田尻主衛先生は栗ヶ畑の出身で、私の母が登校中飛石を渡るとき、傘を流したのを拾おうとして「鍋の口」の淵に流され、中央の石の上に乗ったのを見て、助けて頂いたと聞いていますが、私共親子二代先生に習いました。学校行事としての運動会、学芸会には家族総出の見物でした。又、部落学芸会もあり賑やかでお年寄も喜んでくれ、私も「大岡裁き」を話し稗田末五郎翁から御礼(寸志)を頂き、少々照れました。五年生のとき努力遠足に参加、三重農学校で豚の見学をし、沈墮の発電所を見学、夕暮れに帰宅しましたが翌日は足が立ちませんでした。毎年六月頃田植えの始まる前学校行事として低学年を除いて苗代の害虫駆除が部落毎にありました。

五年生以上の修学旅行で佐賀関の製錬所に行きましたが、幸崎までは汽車で、それからは徒歩で行きました。大きな煙突を目前にしてびっ

くりしました。所内見学で銅鉱石が赤い溶液となつて高い所から大きな樋を落ちて来るのは見事なことでした。その夜は宿屋で楽しい一夜を過ごしました。翌日は船で別府港に着き汽車で帰り、実に楽しい旅行でした。

当時は学校の隣が役場で、役場の通達事項の手紙を配るのは児童の仕事のようでした。祖父が区長の時手紙を頼まれたが、母が里に行っていたので私も学校からそのまま母の所に行つて翌日帰ると「お父さん」と甘えたところいきなり縁から蹴落されました。手紙がその日村の税金取立帳で、取り立てができず止むなく前年度の帳簿で取り立てたとの事で、暴力的折檻で詫びるのも忘れ泣くだけでしたが、今では一生一度の叱られた父の言葉が懐しく思い出されます。

此の度は屋内体育館も竣工し、明治二十年黒松簡易学校となり百歳を迎え、記念式典が挙行されるに当り、此の母校より有為の人材が多数出られ郷土の発展の為一層の努力をされますようお祈りし今日のこの喜びを皆様と共にお祝い申し上げます。